

(教育委員会注釈)この版は、資料編を除いた報告本文のみを掲載しています。

栃尾地域における小学校中学校のあり方に係る
栃尾地域学校再編検討会報告書

令和7年3月26日

栃尾地域学校再編検討会

1 はじめに

全国的な少子化の流れは栃尾地域でも顕著であり、地域の大きな課題となっています。令和4年度に長岡市出雲崎町小中学校PTA連合会 栃尾ブロックが、小中学校・幼稚園・保育園・こども園の保護者と小中学校の児童生徒を対象に「栃尾地域の子育て環境に関する意識調査」を実施しました。この調査の中で栃尾地域の出生数と今後の児童生徒の予想数を資料として示したうえで、各園・学校の保護者に対して、今後の栃尾地域の小中学校の編成規模についてどうあるべきだと思うかと意見をきいたところ、44%が減少に伴って2校ずつの合併で対応していく、また、41%が小学校2校、中学校1校程度になるような大規模な合併を検討してもよいと思う、との回答がありました。

この結果から栃尾地域における小中学校のあり方の検討を行うため、栃尾地域の代表、学校保護者の代表など各団体の代表者を構成員（項番8参照）とし、栃尾地域の小中学校長および栃尾高等学校長をオブザーバーとした、栃尾地域学校再編検討会を立ち上げ、令和6年7月から翌年1月まで合計6回の話し合いを重ねてきました。

この再編検討会では、栃尾地域における小中学校の現状と課題を把握した上で、子どもたちが多様な考え方にふれあう機会や集団としての活動の意義などの視点から、学校のあり方や特色ある教育活動などについて、さまざまな意見が交わされました。

中でも、再編後の小中学校の校数や場所については、将来的な児童生徒数の推移や、今ある学校施設をこれからも引き続き使用していける校舎の構造などについて、各委員が様々な意見を出し合いました。時には、通学させる保護者や栃尾地域の各地区の住民の思いを踏まえながら、子どもたちの教育環境を良くしていくことに重点を置いて検討を続けてきました。

少子化が進行していく中で、既存の各学校をこのまま維持していくと、児童生徒同士でさまざまな考えに触れる機会や、集団学習の機会が今より減ってってしまうことは確実です。本再編検討会では、人口の大幅な増加は見込めない状況で、徐々に学校の再編を繰り返していくのは児童生徒たちの環境変化の点でも望ましいものではなく、より望ましい環境を長く維持するには、栃尾地区全体を捉えて小中学校の再編を行うことが必要だという結論に至りました。

現存する栃尾地域の校舎をそのまま活用することを前提に、すべての小中学校の児童生徒を1箇所に集約できるのは令和16年度ころと推計できましたが、その一方で、令和10年度の栃尾地域の小学校1年生は合計27人と推定されて

います。児童同士でさまざまな考えに触れる機会や、集団学習の機会が今より減ってしまうのは明らかであり、小学校と中学校が1つの校舎に集約できる見込みの令和16年度ころまで待つことは適当でないと考えます。

これらのことから本再編検討会では、より多くの児童生徒との交流や、集団学習ができる教育環境を整えることが大切であると考え、令和10年4月を目指して小学校を再編し、集団規模を保つ新たな学び舎にすることを提案します。

また、小学校の児童数の減少は、時を置いて中学校の生徒数の減少に繋がるため、中学校の教育環境も整えていかなければなりません。小学校で再編を体験した児童が、中学生になって2度目の再編を体験することがないように、中学校の再編時期には配慮が必要です。

小学校と中学校を再編することで児童生徒の集団規模を一時的に保つことはできます。しかしながら、その後も少子化が進むことで、徐々に小中学校とも在校生数が減っていきます。令和10年4月に小学校に入学した1年生が中学校に進学する令和16年度には、小中両校の在校生数が減って、1つの施設に集約できる検討時期と重なることから、児童生徒の集団規模を保つため、第2段階として、この頃に小中学校を1箇所を集約して一体型校舎にすることを提案します。

そして栃尾全域のすべての児童生徒が一体型校舎で学習することに合わせて、義務教育9年間を連続した教育課程として編成する、長岡初の「義務教育学校」あるいは「小中一貫校」を創設することを、最終段階として提案します。

【第1段階】 令和10年4月を目指して小学校中学校を再編し、集団規模（学級数）を一定程度保つ学び舎にすること

【第2段階】 令和16年4月頃までをめどに小学校中学校を1箇所を集約して、小中学生が一体型校舎（既存のどこかの学校校舎）で学んでいくこと

【最終段階】 栃尾地域のすべての児童生徒が一体型校舎で学習することに合わせて、長岡初の「義務教育学校」あるいは「小中一貫校」を創設すること

本再編検討会のまとめにあたり、この「栃尾地域における小学校中学校のあり方に係る報告書」を長岡市教育委員会に提出します。報告書には、小学校と中学校それぞれの再編について、また、再編するにあたり配慮いただきたい事項などを記しました。栃尾地域は広域にわたるため、学校再編については、山間地域の登下校の困難さや、近くの学校がなくなってしまう地域住民の思いなど、配慮すべき要因が非常に多くあります。校舎の耐用年数などだけでなく、児童生徒、保護者、地域住民の意見を幅広く集約し、最大限の配慮をしていただくことをお願いいたします。

今後、栃尾地域における小中学校のあり方を長岡市が計画するにあたり、この報告書を御活用いただきたいと思います。再編後の小中学校として使用する施設の場所の検討については、本再編検討会で深く協議した結果、市に委ねたい旨、申し添えます。

2 小学校について

長岡市においては小学校1年生と2年生の1学級の人数は32人以下で編制するという方針ですが、令和10年度の栃尾地域の小学校1年生の人数は、地域全体を合わせても1学級に満たない27人と推定されております。

令和7年度からは下塩小学校が栃尾東小学校と統合するため、地域の小学校は3校となりますが、その後も各校の児童数は年々減少していきます。1学級の人数が少なければ一人ひとりに応じたきめ細かい指導をしていただける反面、人間関係がこじれると孤立の可能性があったり、体育の授業での集団競技や音楽の授業での合奏といった学習活動の成立が難しくなったりすることが生じてきます。

栃尾地域には、小規模教育でも複数の小学校があったほうがいいのかという意見も本再編検討会では出ました。しかしながら、「より多くの児童との交流があり、集団学習の機会ができる教育環境を整えることが大切である」と考え、学校数の再検討をしたうえで、令和10年4月を目指して小学校を再編することを提案します。

3 中学校について

小学校の児童数の減少は、時をおいて中学校の生徒数の減少に繋がるため、中学校の教育環境も整えていかなければなりません。小学校で再編を体験した児童が、中学生になって2度目の再編を体験する可能性を減らすため、市が小学校の再編を行う時期に合わせて、中学校も同じ時期に再編することを提案します。

4 学校再編の主な利点

- ① 1学級における男女比の偏りを減らせます。
- ② より広いコミュニケーションを築けます。
- ③ 体育や音楽などの集団学習が多様になります。
- ④ より多くのまつりや行事を体験でき、郷土を知る教育が多様になります。

5 学校再編に伴い配慮いただきたい内容について

- (1) 栃尾地域には特色のある資源があり、また、地域に根差す豊富な人材がいます。しかし、より多くのまつりや行事などの資源や人材を授業に活かし、郷土愛を育む教育に繋げていくには、働き方改革が進められている学校現場だけに任せると負担が大きいと考えます。再編検討会で他市の取り組みを参考に検討した結果、学校内部に“学校と地域のつなぎ役(コーディネーター)”を配置し、地域と連携することに力を入れていくべきと考えます。
- (2) 大勢の中に入ることが困難など支援が必要な児童生徒に対して充実した支援が行えるよう、地域の人材を生かして「学習支援員」を厚く配置するなど、一人ひとりにきめ細やかな指導(少人数指導)の推進をお願いします。
- (3) 栃尾地域は広域にわたり、学校再編に伴い遠距離通学となる児童生徒が大勢出てくるため、スクールバスによる手厚い登下校支援をお願いします。
- (4) 地域と家庭と学校が気さくに情報共有できるコミュニティ教室の新設をお願いします。
- (5) 再編する小学校中学校は、教育環境を考えた学校再編との印象となるよう、新たな学校名を冠するなど、地域に配慮をお願いします。
- (6) 学校運営協議会は、教育環境の向上を継続して考えていくとともに、地域との繋がりを保持していくよう、お願いします。
- (7) 建築年数だけでなく、児童生徒、保護者、地域住民の思いにもきめ細やかな配慮をしながら、市で使用する学校を決定するようお願いいたします。

6 むすびに

小学校中学校の再編が進んだ後も、少子化は進んでいきます。栃尾の子どもたちが減り続けていくと、この報告書で再編を提案する小学校と中学校も、「はじめに」の項で示したように、1つの校舎に一体となり、小中学校が1つの校舎で一緒に学ぶことも見据えていかなければならないと考えます。

また、学校再編に伴い空くことになる校舎が出ますが、これを栃尾地域の特色を活かした活動ができる場所としたり、避難所として、施設の継続や、栃尾地域全体の活性化につなげていく新たな施設として利活用していくための検討を、関係機関と連携して進めることも合わせて提案します。

今回の報告書はあくまでも限られた検討会委員で検討した結果をまとめたものです。長岡市で学校再編の方向性を出す前に再編予定年に当事者となる保護者や学校再編に関心のある地域住民の意見を広く聞く機会を必ず設けていただ

きたいと思います。

最後になりますが、今回の学校再編検討によって、家庭・地域と学校がより一層強く結び付くことを期待します。この報告書を提出した後、長岡市が学校再編の内容をさらに検討することと思いますが、その検討内容に対して地域全員で同じ方向性をもって取り組んでいくことが、これからの新たな栃尾地域を創り上げていくことにつながります。多くの大人が本気で子どもたちの幸せを考えることが子どもたちの幸せと栃尾地域の明るい未来につながると信じて、私たちはこの報告書を提出いたします。